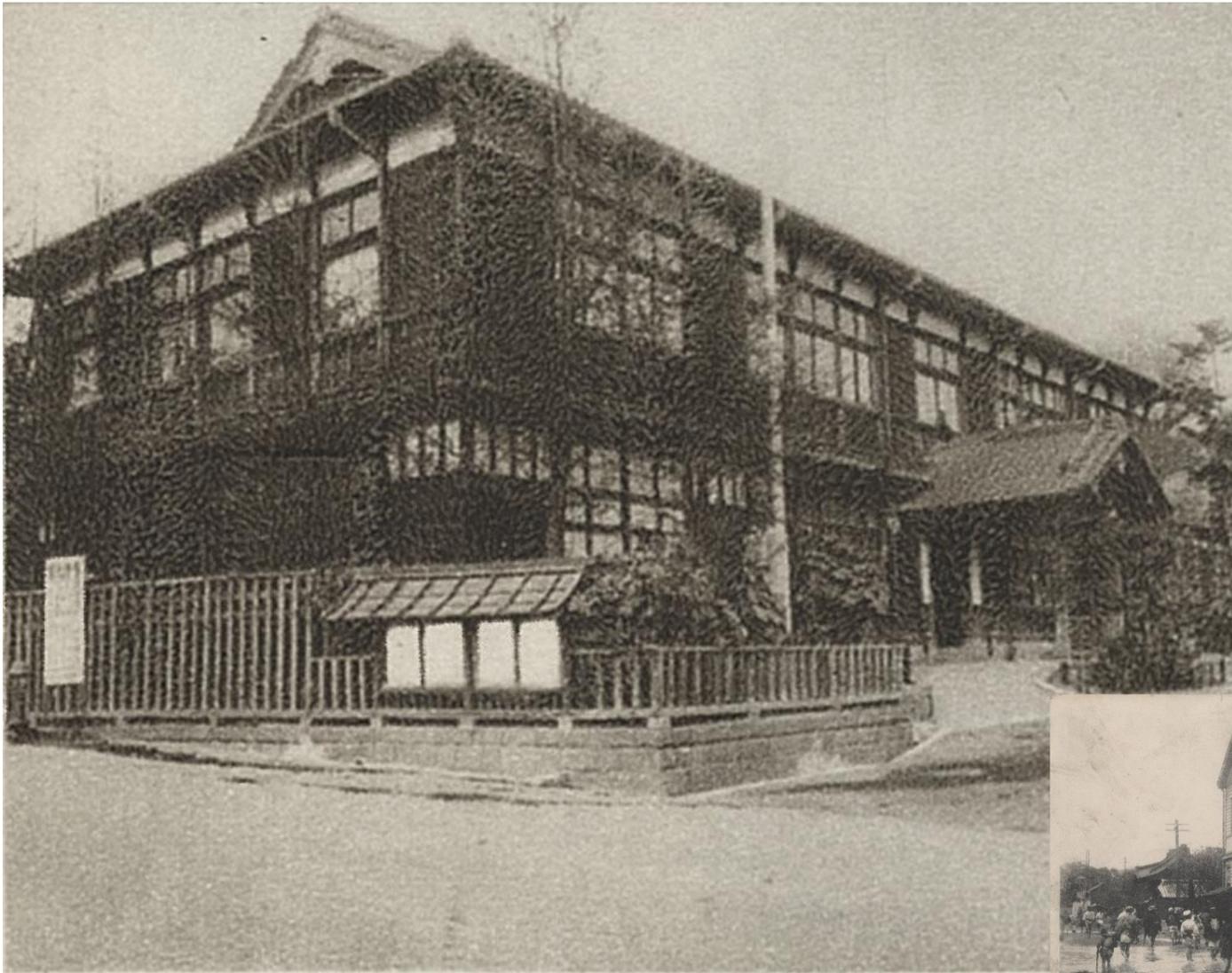


木造庁舎の時代へ



小石川区役所庁舎 東京市編『東京市市政概要』昭和7年



明治四十四年七月二十六日大暴風雨大惨事 深川区

明治 22 年(1889)、市制に基づき「東京市」が誕生すると、東京市の中に東京市の公共建築を設計するための営繕課が設置されました。

明治 27 年(1894)6月、東京湾を震源とする「東京地震」が発生しました。この時、東京市内の煉瓦造や石造の建物は大きな被害を受けました。

また、この頃になると各区の業務も次第に増えていくことになり、煉瓦造庁舎の使い勝手が問題となります。

こうした状況から、明治 30 年代～40 年代の区役所庁舎は、木造で建てられるようになりました。

【参考文献】山崎鯛介、今野希美「明治期の東京市に建設された煉瓦造の区庁舎 明治・大正期に建設された東京市の区庁舎の特徴(その 1)」『2013 年度日本建築学会学術講演会梗概集』、pp.887-888